

第1回宮津地区将来構想策定検討委員会 会議録

日 時：令和2年9月30日（水）午後1時30分から午後3時45分

場 所：大矢野庁舎書庫棟2階会議室

出席者：堀江市長、村田委員長、花房委員、嶋元委員、松本委員、静谷委員、
水野委員、北岡委員、村上委員（竹口委員の代理）、古谷委員、林委員、何川委員、
星野委員、福田委員、中村委員（大瀬委員の代理）、関係課長、開発プロジェクト
推進課職員（事務局）、受託者（株式会社環境デザイン機構）

欠席者：寺本委員、高橋委員、田中委員

1 開会（事務局）

2 委嘱状交付（代表受領：松本委員）※その他委員は、机上配布

3 市長挨拶

市 長：お忙しい中にも関わらず、本検討委員会に御出席いただき感謝申し上げます。重ねて本検討委員会委員の就任依頼に際して、快くご承諾いただいたことに対しても感謝申し上げます。

ご承知のとおり、宮津地区においては、公共施設が集積しており、市内外問わず多くの方々が交流するエリアとなっている。現在、整備が進められている熊本天草幹線道路についても、大矢野道路のみならず三角宇土区間についても来年度は、事業区間としての見通しが出てきており、近い将来、熊本都市圏との移動距離が大幅に短縮されることで、ますます天草方面への人の流れも加速することが予想されることから、交流人口の拡大に向けた取り組みについて検討を行う必要があると感じている。

本検討委員会においては、現在における宮津地区の現状と課題を共有して、各施設の今後の在り方やまちづくりの方向性等について、検討を行って参りたいと思っているので、委員の皆さまからは忌憚のないご意見を賜りたい。

委員の皆さまには、大変ご苦勞をお掛けするが、宮津地区をより良い観光地にするための将来構想を策定してまいりたいと考えているので、実りある会議となるよう委員の皆さまの御協力をお願いします。

4 委員自己紹介

5 議事

（1）事業概要説明・会議スケジュールについて（事務局）

※資料①に基づき説明。

嶋元委員：宮津地区における施設間の連携や動線の悪さは、議会でも議論になることが多かった。将来的には、熊本天草幹線道路の開通も予定されており、入込客も増えることから、受け入れ体制を整えるためにどのような取り組みをやっていくのかしっかり考えて取り組んでやっていただきたい。

事務局(光瀬)：ご指摘のあった施設間の動線の悪さは、我々も把握しているところ。宮津地区は色々な施設が集積しているわけだが、合併前の旧大矢野町時代から限られた土地の中で、個別に施設が整備されていって、現在に至っている状況。また、現在のコロナ禍における観光の在り方についても見直す必要があると考えている。

まずは、この宮津一帯において、総合計画にも位置付けられている観光の目的地化を図るために、ハード・ソフト含めてどのような取り組みが必要かを考え、より魅力的な宮津地区にするための将来構想を本検討委員会の中で固めていければ、現在の宮津地区における課題解決に向けての議論も進むと考えている。

市としては、宮津地区と昨年整備が完了した前島・千巖山等とも連携し、市全体の観光振興に繋がるような取り組みについても、この将来構想の検討を進める中で意見交換を行えたらと考えている。

嶋元委員：新たな図書館の整備等が予定されている中において、この将来構想の中で新たな施設の建設や海岸の開発等についても踏み込むのか。

事務局(光瀬)：今回の将来構想の中では、具体的に施設の建て替えや大規模改修、海岸等の開発については詰めない。あくまで、今後の宮津地区のイメージが湧くようなまちづくりの絵を描き、その中で市有地を含めた土地利用の在り方についても、議論を行えたらと考えている。

(2) (仮称) 新大矢野図書館及び天草四郎公園の整備概要について (原田社会教育課長)

※資料②に基づき説明。

福田委員：駐車場のスペースの場所と高齢者等も使いやすい工夫があれば教えて頂きたい。

原田課長：駐車場については、現在の公園入口(天草四郎ミュージアム下)付近に30台を予定している。高齢者等の利用しやすい工夫については、施設の正面入口に身障者用駐車場を2台設け、正面入口を入ってすぐにエレベーターを設置することとしている。

福田委員：駐車場から玄関までの距離と車椅子や杖をついた人が歩きやすい工夫はされているか。

原田課長：駐車場から正面入口までは約30メートル。車椅子で行けるスペース等には道

路部分に表示をする等、利用しやすいような設計を予定している。また、車から施設への乗り入れがしやすいような場所を設置することとしている。

星野委員：私自身、図書館に行く習慣がなく、今はネットで情報を入手したり、本も電子書籍化される時代。人が集まれる場所の整備というのは素晴らしいと感じるが、図書館に行きたい、本を借りたいと思わせる工夫が必要だと思うがどのような考えか教えていただきたい。

また、基本的には市民の方の集いの場というのがメインになるかと思うが、観光客等の外から来た方が立ち寄りたと思わせるような工夫があれば教えて頂きたい。

原田課長：まず、図書館に行きたいと思わせる工夫だが、資料でもご説明したとおり、当市の図書館利用における一人当たりの冊数は県内でも低い状況。市内には4つ図書館があり、利用者を増やす取り組みについて、検討を行っているところだが、なかなか成果として出ておらず、今すぐお答えすることは難しいが、今後、施設の整備と合わせて検討を行っていく。

なお、歴史資料室等のスペースも設けることから、例えば小学校の授業等で活用してもらい、図書館の良さを改めて実感してもらうことで、今後の利用につながればと考えている。

市外からの人を呼び込む工夫については、隣に天草四郎ミュージアムがあるので、天草四郎であったり、天草五橋にご尽力いただいた森先生等の偉人の方々の資料についても色々揃えたいと考えている。

また、宮津地区は、夕日がとても綺麗なところなので、図書館の2階から景色を楽しんでいただき、公園で親子一緒にゆっくりくつろげるスペースについても計画しているところ。

林委員：あったら良いなという希望の意見になるが、Wi-Fi が完備されており、シェアオフィスやコワーキングスペースとして活用できるようなスペースがあれば、私自身、仕事等の打ち合わせを行う際にも活用できて助かるが、そのようなスペースはあるか。

原田課長：Wi-Fi については、熊本フリーWi-Fi を設置する予定で、図書館の2階には、打ち合わせや会議等で使用できる研修室を設ける予定としているので、そちらで活用していただければと思う。

福田委員：女性にとってカフェ等のスペースがあれば大変喜ばれる。地元のみならず観光客も立ち寄りやすくなるので、まだ検討の余地があるのであればカフェを入れていただけると嬉しい。

原田課長：現時点の計画においては、カフェは検討していない。図書館内にエントランスがあり、そちらに自動販売機や雑談スペースを設ける予定。

また、図書館2階には屋外テラス等も計画しているので、そちらでゆっくり過ごしていただければと考えている。

図書館内の飲食というのは、本を傷めたりするので、カフェは厳しいかと思うが、様々なご意見を参考にしながら、多くの人の憩いの場となるように検討を続けて参りたい。

林委員：カフェという括りでなくても、熊本未来会議室のように自分で作れるコーヒーコーナーぐらいのスペースがあれば、気軽に立ち寄れて、コーヒーでも飲みながら打ち合わせを行ったりできるので、私自身利用すると思うし、市外からも人を呼びやすい。

原田課長：飲食については、先ほどご説明したとおり、エントランスや屋外テラスでご利用していただくが、土日は観光客も多いと思うので、例えば軽食が取れるようなキッチンカーの設置等についても検討している。

また、公園の整備も予定しており、イスや机を設置し、くつろげるスペースを確保することとしている。

(3) 宮津地区の現状と課題について（株式会社環境デザイン機構）

※資料③に基づき説明。

福田委員：天草四郎ミュージアムとさんば一るの閉館時間が早いように感じているので、例えば金土日だけは閉館時間を延長すれば、観光客の利用も増えるのではないかなと思う。

また、昨年アメリカのセロナという観光地を訪れた時に、歩きながら周辺施設の案内が見れる看板があったので、例えば施設の前や近くに周辺施設の看板があれば、観光客も色々な施設に行ってみたいという気持ちになる。

前方課長：天草四郎ミュージアムについては、夜間開園等も検討したことはあったが、今はコロナの影響もあり、長い時間開けるのが難しい状況。開館時間等については、今後も検討していく。

何川委員：さんば一るは観光客をメインとしているが、実際の割合で見ると、全体の7割が地元、3割が観光客となっている。今、コロナの影響で売上は前年に比べると10%落ちている。部門でいうと、特に土産品であり、レストランについては閉めている状況。しかしながら、それ以外は逆に伸びている。理由は、野菜や魚等、地元の人々の利用が多いためであり、今後、地元の人が多く利用している点を踏ま

えて運営の在り方について検討していく必要がある。

営業時間の延長については、今まで19時まで開館したこともあったが、ほとんど観光客は来ない、なぜなら、観光客は泊まったホテルから出てこないからである。私がさんば一るに入った当初は、朝早く帰る観光客もいるため、朝7時に開けていた時もあったが、10年、15年たつと観光客の流れも変わってきており、今は午前中をメインに売っていくことにしている。特に今はコロナの影響で夕方客はかなり減っている。コロナによって、生活スタイルも変わってくると思うので、その辺を加味して検討を行っていく必要があると思う。

嶋元委員：今の宮津地区の現状を見ると、個々の開発が単発で終わっており、今まで、総合的な全体の計画が無かったのが原因だと思っている。

今後は、新しくできる図書館が核になっていくと思うが、図書館とさんば一るをつなぐ歩道橋のようなものがあれば、お客さんも自由に行き来ができ、動線の確保が図られるのではないかと考えている。

事務局(光瀬)：ご指摘のとおり、宮津地区の全体像が無い中において、個々の施設が整備されてきたことで、今の状況に至っており、これから既存施設をどのように活用していくのかの検討は行っていく必要があると思っている。

また、今までは、それぞれの所管課が所管している施設を管理運営するということが良かったが、これからの時代は、宮津地区に集積する施設であれば、それぞれの所管課において、課の域を越えた連携が必要になってくると思うので、市としても引き続き検討するとともに、本検討委員会でも様々な議論を行えたらと思っている。

松本委員：これから人口が減っていく中において、新たな施設(図書館)を作って、大丈夫なのか心配である。例えば、人口を増やす取り組み等に力をかけてもらった方が良いと思う。

花房委員：図書館については、現在事業が進んでおり、より良い施設となるよう担当課で検討を進めていかれる。これから人口が減っていくのは間違いないことで、税収等、市の収入になる部分も減少していく中で、行政が新たに施設を整備するというのは難しいかと思うので、今後は、民間投資による取り組みの可能性についても検討していく必要があり、委員の皆様からアイデア等があればご意見をお願いしたい。

福田委員：質問になるが、さんば一る裏の広場は公園なのか。公園といえばベンチ等があるイメージで、現状の利用は、イベント時の駐車場や地元のグラウンドゴルフの利用しかないように思う。

広場の今後の活用方針というか、イメージがあれば教えていただけると、私自身、観光振興に係る地域おこし協力隊として活動しており、イベントも実施しているので、参考にさせていただきたい。

本田課長：さんば一畠の大矢野農山村広場公園は、現在、グラウンドゴルフ等で地元を利用していただいている状況。

また、パールラインマラソンやエビリンピック等のイベント会場として使用している。

今後、観光客等についても何らかの形で利用していただければと思うので、計画しているイベント等があれば、利用価値が出るような形で検討していきたい。

(4) 宮津地区の在り方について（株式会社環境デザイン機構）

※資料④に基づき説明。

星野委員：感想になるが、私自身、東京で働いていて、去年上天草市に移住し、上天草市は食べ物や景色が素晴らしいのはもちろんだが、移住した一番の決め手は、“人”である。面白い人が多い、頑張っている若者や頑張っているおじいちゃんおばあちゃんが出て、とても魅力的な人が多い。地元の人と観光客が自然に交流できる場所やきっかけがないと他の地域との差別化は出来ないと思っている。資料にある「日常づかいの観光」というのは、とても素晴らしいと感じており、説明にあったように宮津地区には、観光施設とそうでない施設が混在しているのは、課題でもあり特徴でもあると思っており、日常のコンテンツと観光のコンテンツが入り混じっていて、地元の人が行き来する中で観光客とも自然と会話が生まれ、自然と一緒にイベントをやる、自然と一緒に仕事をやるというコンセプトを進めていければ、地元の人達も外から来た人たちに地元の魅力を伝えることができ良い循環が生まれるのかと感じた。

中村委員：「日常づかいの観光」というのが、今後、宮津地区の目指すべき姿の大きなテーマになるのかと思う。今まで、大きなイベントをやって、多くの人を呼ぼうという方向だったのが、もうちょっとじんわり中の人と外の人が交流するスモールコンパクトな取り組みがこのエリアでできれば、前島地区との差別化も図られる。

さらに、機能連携ということでいえば、例えば宮地区には天草ミュージアムと図書館の連携が考えられ、上天草市は、キリシタン文化の里である天草地区の玄関口ということで、天草四郎ミュージアムがガイドダンスセンター的な役割を果たし、そこで楽しんでもらった観光客がもっと深く知りたいということであれば、図書館に誘導する等、もともと違う機能を持った施設の連携というのは工夫次第で考えられるので、検討をお願いしたい。

また、近くに水産研究センターもあるので、この構想の中で機能連携の部分で協力して欲しい等のご要望があればできる限り協力させていただく。

福田委員：今日の話聞いていて、やっぱり図書館が一番のキーポイントになるのかなと思う。電子書籍の普及による活字離れが進む中で、図書館をどのようにしていくのかを考える必要がある。地元の人と観光客が交流する場を考えた時に、図書館という場所が観光客に対してもオープンな場所ということをしてPRしていくことが必要。現在の図書館の構想がどれくらい固まっていて、私たちの要望がどこまで反映できるのか。

また、先ほど熊本フリーWi-Fiを導入されるということだったが、都会の人が来て、観光のついでに仕事をするという使い方も想定される中で、熊本フリーWi-Fiでは使いづらく厳しいと感じる。

原田課長：図書館の整備については、昨年の8月に基本構想を策定しているが、その際に事前にパブリックコメントを実施し、市民の方からご意見等を募った。その構想をもとに昨年12月に基本計画を策定したが、それも事前にパブリックコメントを実施し、ご意見をもとに策定したところ。施設の整備については、今後、詳細な整備内容を決める実施設計に入っていくことになるが、本日出た意見等については、反映できることとできないことはあるものの、設計会社にも伝えて、市民に愛される施設となるよう整備を進めていく。

林委員：宮津地区の夕日というのは、とても素晴らしいと感じているが、上天草市は観光地でありながら、光と音楽のコンテンツが少ないと思っている。例えば、夕日のところにジャズが流れていたり、ジュークボックスのように、観光客が音楽を楽しむ等、ちょっとした工夫で宮津地区は魅力的なエリアになると思った。

6 その他（事務局）

事務局（松本）：第2回会議を10月20日（火）午後1時30分から書庫棟2階会議室で開催するので、御出席をお願いします。

7 閉会（村田委員長）